

# 神奈川県ビリヤード協会 -理事会 議事録-

2026.4.22 12:00～ 15:30 Zoom 会議

出席者：安藤・黒岩・田口・荻原・石井・杉万



| 1

議論内容：

1. 加盟店舗の入会承認
2. 総会資料の確認
3. 規約修正
4. ジュニア9ボール反省会
5. 杉万氏の賛助会員の移行について
6. 事務局の守備範囲および意思決定のプロセスの整理
7. ポケット大会運営体制および役割整理
8. 大会運営における集計方法およびデータ管理の改善

## 議題1 加盟店舗の入会承認（説明：石井）

### ■背景

メッカ横浜について、オーナーが銘苅氏から榊原氏へ変更となり、新オーナーより加盟申込書が提出された。屋号および所在地は変更なし。

### ■発言内容

（石井）

メッカ横浜については、オーナー変更に伴い新規加盟申請が提出されている。榊原氏は他店舗の経営実績があり、JPBAのプロ選手でもあることを確認している。規約上も問題は見当たらないと認識しているが、意見を確  
認したい。

（安藤）

特に問題はないと考えており、賛成である。

（黒岩）

営業形態に変更がなく、経営主体のみ変更であれば問題はないと考える。

（石井）

反対意見がないため、承認したい。

### ■決定事項

- ・メッカ横浜の加盟店舗としての入会を承認

## ■タスク

・安藤：GW 明けにメッカ横浜（榊原氏）への訪問および趣旨説明

## 議題2 総会資料の確認（説明：石井 田口）

### ■背景

総会に向けた資料について、内容確認および修正点の整理を行うため、現時点の資料案をもとに議論を行った。

### ■発言内容

（石井）

総会資料として、案内状、加盟店一覧、正会員一覧、決算書、予算案、年間行事予定、Zoom 参加手順を含めた構成で作成している。

（田口）

決算書について、BC ペアバトルの大会出場料が二重計上されている箇所があり、56,000 円分については過剰預かり金として修正する必要がある。

その修正を反映した場合、最終的には約 188,935 円の赤字となる見込みである。

予算案については、事務局手当の人件費増加のため 80,000 円から増額して計上している。

### ■決定事項

・総会資料について、決算書の修正（BC ペアバトル大会出場料の二重計上分）を反映したうえで最終版を作成する

## ■タスク

・石井：決算書の修正および総会資料の最終版作成

・各理事：資料内容の最終確認

## 議題3 規約修正（説明：石井）

### ■背景

加盟店舗の年会費について、中途入会時の取り扱いがこれまで個別判断で運用されており、判断のばらつきや混乱が生じた経緯がある。そのため、年会費の取り扱いについてルール化するかどうかを含めて議論を行った。

### ■発言内容

（石井）

これまで年会費については個別判断で対応していたため、ルールを整理する必要がある。現在の規約では年会費は一律であり、入会時期による差は設けられていない。

一方で、新規開業店舗については年度途中での加盟となるケースがあるため、特例を設けるかどうか論点となる。

(黒岩)

段階的にする必要はない。年会費なのだから、一日でも早く入りたいのであれば 10,000 円を払うという話である。新規の店舗であっても開店時期は任意であり、経営者が選べるものであるため、それを理由に金額を変える必要はない。

途中から入る場合に割引するような仕組みを作ると運用が複雑になり、規約を細かく作る意味もない。

そもそも、年度末に入会しても 10,000 円を払うべきであり、一日ずらせばよいだけの話である。

(黒岩)

アマチュア連盟はどうなっているのか。KPBA などどのような運用をしているのか。

(荻原)

KPBA については月会費制であり、年会費ではないため、入会した月から徴収する形になっている。

また、JAPA は年会費制であり、入会時期に関わらず年間一律の会費となっている。

そのうえで、今回のように割引制度を設けた場合、意図的に退会と再入会を繰り返すなど、制度が悪用される可能性がある点は懸念している。

(杉万)

新規開業店舗については入会時期を選べない事情もあるため、何らかの配慮があってもよいのではないかと考える。

(黒岩)

仮に途中入会で金額を気にするのであれば、翌年度から入会すればよいだけであり、特別に配慮する必要はない。

## ■ 決定事項

- ・加盟店舗の年会費は入会時期に関わらず一律 10,000 円とする
- ・新規開業店舗を含め、特例制度は設けない
- ・規約修正は行わず、現行規約のままとする

## ■ 提案事項

(荻原)

大会運営の観点では、制度が悪用される可能性があるため、例えば県知事杯などにおいて、直前に加盟した店舗については優先受付の対象外とするなど、大会要項の中で対応することも検討できる。

## 議題 4 ジュニア 9 ボール反省会 (説明：石井)

### ■ 背景

ジュニア 9 ボール大会において、選手名の誤りやデータ不整合、ルール変更の周知不足など複数の問題が発生したため、原因整理および改善策の検討を行った。

### ■ 発言内容

(石井)

今回、選手名の誤りが複数発生しており、同一大会内で複数のデータが存在する状態になっていた。各自が修正を行ったと認識してしまい、どのデータが正しいのか分からなくなっていた。

資料ごとに表記が異なっていたり、原本が特定できない状況になっていた。また、最終確認の担当や範囲が明確でなく、事務局が作成した資料を各自が確認する形になっていたが、確認状況が曖昧なまま現場に渡ってしまった。

現場で修正された内容が事務局に共有されなく、事務局は現場の修正を再修正しメディアに名前の誤りが修正されないまま資料を送ってしまった。また、名前間違いは昨年も同様のミスとして発生していた。

大会要項の変更についても周知が不十分であり、保護者からクレームがあがり現場で混乱が生じてしまった。改善案として、データの原本を一つに固定し、個別にエクセルを編集する運用をやめる。大会前に確定版を定め、当日はその資料のみを使用する。最終確認は運営責任者が承認する形にしたい。

また、現場で修正があった場合は必ず事務局に共有し、次回へ引き継ぐ仕組みを作りたい。ミスの責任を個人に求めるのではなく、再発しない仕組みを構築したい。

(安藤)

今回のミスについては、どこで誰がいつ間違えたのかを正会員側で整理し資料としてまとめている。現場は事務局から送られてきた資料を正として運用しており、現場での修正対応や謝罪対応が発生した。

運営側は最大限対応しているが、結果として外部からは運営やKBA全体の問題として認識されてしまっている。今回の資料は再発防止のためのものであり、今後活かす必要がある。

(黒岩)

今回の問題は単なるミスではなく、事務局の感情的なメールでの発言や先走りがあったのではないかと。事務局は対外対応について理事長と相談したうえで進めるべきである。

また、大会要項は募集時点で確定しているべきであり、後から変更する運用は問題がある。ルール変更がある場合は事前に明確にし、発表も主催が行うべきと考えている。

(杉万)

今回の問題の背景には事務局のリソース不足もあり、複数案件を抱える中で対応が逼迫している状況がある。運営と事務局の連携不足により温度差が生じている。

協会としては、事務局と運営が協力できる関係を構築する必要があり、現状のままでは組織運営に支障が出る可能性がある。

(安藤)

正会員は今回のジュニアの件を重く受け止めており、再発防止のために詳細な検証を行っている。今後も協力体制を維持するためには、今回の問題について整理と共有が必要である。

(石井)

今回の件について、名前の誤りについては事務局側に起因する部分があったと認識した。また、自身の認識不足や対応に問題があった点についても認識した。

今後は、現場運営者および関係者に対して謝罪と再発防止策の提示を行い、関係の改善を図りたい。

## ■ 決定事項

- ・データは原本を一つに統一し、複数編集を行わない運用とする
- ・大会前に確定版を作成し、当日はその資料のみ使用する

- ・最終確認は運営責任者が承認する形とする
- ・現場での修正内容は事務局へ共有し、次回へ引き継ぐ

## ■タスク

- ・石井：データ管理方法（原本管理・確定版運用）の整理
- ・石井：関係者への謝罪・説明および再発防止策の提示
- ・運営責任者：最終確認および現場での修正内容の報告・共有

## 議題5 杉万氏の賛助会員の移行について（説明：石井 杉万）

### ■背景

杉万氏より、正会員および会計監査の立場から、賛助会員への移行および役割整理に関する議案が提出された。

### ■発言内容

（石井）

現在、会計監査を担当している杉万氏より、賛助会員へ移行したいという申し出があるため、本人から説明をお願いしたい。

（杉万）

現在、会計監査を行いながら事務局補助も行っているが、コンプライアンス上問題があるのではないかという認識がある。

板橋氏とも相談した結果、業務の補助を行いながら会計監査や業務監査を担うことは、利益相反に該当するとの指摘を受けている。

監査には業務監査と会計監査の両方が含まれるため、業務の補助を行いながら監査を担うことは適切ではないと考えている。

任期は残っているが、一旦監査を辞任し、賛助会員として協賛などの形で関わりながら、事務局補助を継続したいと考えている。

事務局手当についても返還を検討したが、今後同様に関わる人への影響を考え、手当分を賞典として還元する形も検討している。

賛助会員としてであれば、事務局補助を行うこと自体はコンプライアンス上問題はないため、その形で支援を続けたい。

（黒岩）

去年の話では、経理業務を除く事務補助ということでコンプライアンス的に問題がなくなったと認識しているが、その辺を確認したい。

（杉万）

協賛という立場になることで、別の形で利益相反となる可能性があるため、監査業務との両立は難しいと考えている。

（黒岩）

では監査については正会員の中から選任する必要がある。

総会までに選任する必要があり、それまでに決定できなければならないということになる。

（石井）

総会までに決定できない場合は、臨時総会を開催し、監査の選任について承認を求めることも可能である。

（黒岩）

監査は正会員である必要があるため、既存の正会員から選任するか、候補者に正会員になってもらう必要がある。

(全員)

本件については、賛助会員への移行自体は承認する。

(安藤)

監査の後任については、すぐに決まるものではないため、今後調整が必要である。  
監査の選任を前提として進める必要がある。

### ■ 決定事項

- ・杉万氏の賛助会員への移行を承認
- ・杉万氏は会計監査を辞任する
- ・会計監査は別途選任する（正会員から選任）

### ■ タスク

- ・安藤：監査の後任者を理事会に推薦する
- ・理事会：会計監査の後任候補の選定
- ・石井：総会資料への反映（会員区分変更および監査変更）
- ・石井：役員変更に関する資料の作成
- ・石井：総会承認後のホームページ役員情報の更新

## 議題6 事務局の守備範囲および意思決定のプロセスの整理

### ■ 背景

事務局の対応において「先走り」や「逸脱」との指摘があり、事務局の業務範囲および意思決定プロセスの整理が必要であるとの問題提起があった。

### ■ 発言内容

(石井)

これまで黒岩氏から「先走りすぎている」との指摘があり、その判断基準が自分の中で明確になっていない。事務局の守備範囲を整理したい。

逸脱していることとそうでないことについて、今回の件だけでなく複数あると認識しており、どこまでが事務局の業務なのかを整理したい。

(黒岩)

規約改定については、変更案を提示すること自体は問題ないが、規約を変更した形で提示するのは逸脱である。

規約全文を書き換えるのではなく、「この部分を追加したい」という提案に留めるべきである。

(杉万)

会議で可決された後に、変更箇所を明示したうえで規約を修正し、確認する形であれば問題ない。

(黒岩)

現状のやり方では「既に変更された」ように見えてしまうため、手順として適切ではない。

## ■交渉・対外対応に関する発言

(黒岩)

市民センターや老人ホームの件において、交渉前に具体的な金額を参考として提示してしまっているが、それは適切ではない。

参考といえども金額の目安を提示すると、それが前提として認識されてしまい、その後の交渉の幅が狭まる。本来は「持ち帰って検討する」とするべきであり、現場で即答するべきではない。

## ■意思決定プロセス

(黒岩)

交渉が絡む事項については事務局判断ではなく、理事長に相談する必要がある。

理事長が判断するか、必要に応じて理事会で検討するべきである。

(石井)

事務局としてどこまで判断してよいのかを整理する必要があると認識した。

## ■補足（背景説明）

(石井)

老人ホームの件については、サークル側と施設側で意向が異なっており、現時点では具体的な依頼には至っていない状況である。

## ■タスク

- ・石井：事務局の業務範囲および判断基準の整理資料の作成

## 議題7 ポケット大会運営体制および役割整理（説明：安藤）

### ■背景

ポケット大会（KBA杯・県知事杯）に向けた運営体制の構築にあたり、実務体制について課題が共有され、今後の体制整備について議論を行った。

### ■発言内容

(安藤)

今後ポケットの打ち合わせを進める必要があり、その中で正会員や実行体制のようなものを作り、責任分担を前提に進めていく必要がある。

現在ポケット担当である崎村氏が動けない状況にある。

現状は自身が対応しているが、本来はポケットに精通した人材が中心となるべきである。

横浜エリアからの関与が少なく、人材が偏っている点も課題である。

今後は新たな正会員の参加や体制強化が必要であり、挨拶回りなどを通じて人材確保を進めていく。

(黒岩)

今後どの役割を誰にどこまで担わせるかを整理する必要がある。

現場からの意見はすべて吸い上げ、整理したうえで検討する必要がある。

### ■タスク

- ・安藤：ポケット運営体制の検討および関係者への調整（正会員・協力者の確保含む）

## 議題8 大会運営における集計方法およびデータ管理の改善

### ■背景

大会運営において、順位計算やリーグ表作成を手作業で行っていたため、作業負担およびミス発生リスクが高い状況があり、改善方法について議論を行った。

### ■発言内容

(安藤)

ジュニアの大会の順位計算については、現場で手計算を行い、複数人で確認しながら対応していた。観戦者や保護者が見ている状況での作業となり、非常に負担が大きかった。

(杉万)

BC ペアバトルで使用したリーグ表には計算式が組み込まれており、得点や順位が自動計算されるようになっている。名前の配置も自動で反映されるようになっている。

(安藤)

そのような仕組みがあれば、現場の負担は大幅に軽減される。

(黒岩)

既存の計算式を活用すればよく、改めて手計算を行う必要はない。

(石井)

今後は Excel 形式で統一し、計算式を活用する形で運用し現場の負担を少しでも軽減したい。

(杉万)

人的ミスを防ぐためにも、計算処理は可能な限り自動化すべきである。

(安藤)

現場では二重チェックで対応していたが、根本的には仕組みで解決すべき課題である。

### ■タスク

- ・杉万：リーグ表（計算式入り）の共有
- ・運営：今後の大会で計算式を活用した運用の検討

以上

